

地域人材ネット

足元にあるものを新しく組み合わせ、
町や村を元気にしていく

吉本 哲郎 (よしもと てつろう)

地元学ネットワーク 主宰



○ 登録者情報

所在地

熊本県水俣市

略歴

- 1971年 宮崎大学農学部農学科卒
- 1971年 水俣市役所
- 2008年 退職
- 2008年～ 水俣病資料館企画アドバイザー
- 2009年～ 鹿児島大学生涯学習教育研究センターリサーチアドバイザー
- 1994年 国土庁地域振興アドバイザー
- 1999年～ 熊本大学及び北海道大学非常勤講師
- 1996年～ 地元学ネットワーク主宰

このほか、農文協「職と農の応援団」

著書・論文等

- 1995年 「私の地元学」NECクリエイティブ
- 2001年 「風に聞け 土に着け 風と土の地元学」
「地域から変わる日本 地元学とは何か」農文協
- 2010年 「地元学をはじめよう」岩波ジュニア新書

○ 足元にあるものを新しく組み合わせ、町や村を元気にしていく

取組の内容

1991年より水俣を水とゴミと食べ物にどこよりも気をつける環境都市にしていく取り組みを住民協働で展開した。その中で住民自らが調べ考え、水俣をつくっていくことを提唱し、全国環境首都コンテストでトップの評価を受けるまでになった。また、環境と健康に配慮したものづくりを進める人たちに環境マイスターという称号をおくり、環境健康ものづくりを促進した。さらに、予算ゼロで源流にある限界集落を「村丸ごと生活博物館」とし、集落の元気をつくっていった。このほか、これらの取り組みが三重県の「三重ふるさと学」や岩手県の「いわて地元学」になって広がった。三重県の大台町浦谷地区や大紀町の野原地区、宮崎県の川南町の鍋合戦などで元気になっていくこととなった。

実績

村丸ごと生活博物館 頭石地区(約45世帯)

取り組み開始は2002年～

訪れた人たちはこれまで5,000人以上

一人あたりの案内料1,000円と食事1,500円の1割を村に還元。それが50万円を超えるにいたる。

工夫した点や苦労した点

町や村を元気にしていくためには当事者づくりが大切であると考え。しかし、住んでいる人だけでは自分たちのよさがわかりにくいので、外の人たちと一緒にやっていくことが大事。でも外の人たちは出過ぎないようにすること。

ひとことPR

地元学は時間がかかる。それは人が育つ時間を必要としているからである。

○ 参考

取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

	1	地域経営改革		7	まちなか再生
○	2	地場産品発掘・ブランド化		8	若者自立支援
	3	少子化対策		9	安心・安全なまちづくり
	4	企業立地促進		10	環境保全
	5	定住促進	○	11	その他(良好な景観の保全・形成)
○	6	観光振興・交流			

関連ホームページ

愛林館	http://www7.ocn.ne.jp/~airinkan/
-----	---

戻る